

令和2年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

和庄中学校区 校番 13 学校名 和庄小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
貫 確かな学力	○学力の向上	○算数科における基礎・基本の定着	2学期末テストは、低学年50%、中学年67%、高学年68%となり、全学年目標達成値には届かなかった。特に低学年は目標値を大きく下回った。成果と課題は以下の通りである。 算数科の基礎的な学力を付けるため継続的に取り組み、答え合わせや直しの仕方まで指導するなど、自学自習の基本は指導することができた。しかし、週4日10分間のスキルタイムだけの学力向上は難しく、中学年以上は、前学年までの定着していない課題にまで取り組む時間が確保できなかった。 低学年での数値が低かった要因として、家庭との連携が難しい児童が多く、学習が定着せず学力が伸び悩んだことが考えられる。学習の準備物忘れや宿題忘れが多く、学校での学習に支障を来す状況である。特に低学年では家庭の協力が不可欠であり、学校と家庭の両輪での学びの定着が難しいといった実態が見られる。 その他の取組として、NIEタイムの取組の成果は現れた。毎週、新聞と触れ合うことで時事問題への関心が高まった。また、学校全体で取り組み、新聞に掲載されたり、賞に選出されたりする児童が増え、児童に紹介することで新聞への関心も高まった。	○個別指導の時間を確保し、個に応じた指導の充実を図る。 ○3学期始めに、再度「和庄っ子家庭学習の手引き」を児童に指導し家庭に配布することで啓発する。 ○引き続き、NIEタイムを充実させる。
		○主体的・対話的で深い学びの実現	児童アンケートの肯定的評価84%、活用問題正答率71%で、目標達成値を大きく上回った。成果と課題は以下の通りである。 教職員研修として、全体研修(理科)とグループ別研修(3回)を実施した。事前研修から事後の協議会まで充実した研修となり、授業の指導法改善に繋がり、児童の主体的な学びに繋がった。 また、全学年、思考ツール活用することで思考を働かせ表現する場を設定した授業を実施した。児童自身が、思考ツールを活用することで、自分の考えを持ち、発表したりすることができたといった有用感を味わうことができ、自己の考えを広げたり深めたりできたとともに、主体的に発表したり、多様な考えを交流したりすることができた。 感染防止対策のため、対話による学びを深める場の設定が難しかったが、可能な方法を模索しながら取り組んだ。	○教職員研修の継続的実施 ・2月末の和庄中学校区小中一貫教育研究会に向けて、指導案検討や交換授業など更に研修を進める。 ○思考を働かせ表現させるために、思考ツールのより効果的な活用を検討し、授業改善を行う。
豊 豊かな心	○和庄中学校区スピリットに基づく児童の育成	○礼儀正しく節度を守る児童の育成	生活朝会で今月の目標について説明し、その日に各学級での具体的な取組を考えた各学級で考えた取組をすることで意識をして行動することができた。また、廊下に掲示してある取組を見て、いろいろな取組があることを知ることができた。 また、週明けの朝の会などで取組についての確認や帰りの会での振り返りを行うことで、今月の目標を意識して継続することができた。	○今後も取組を継続し、学校全体・学級全体での取り組みに積極的に参加できるようにする。 ○振り返りの時間を充実させる。
		○人を助け学校や地域社会に貢献する児童	友達や教師が評価をすることで、誰かのために何かをすることが喜びになることが分かった。しかし、同じ児童への評価が偏ったり内容が重複したりした。そのことから、日直が帰りの会で評価したり、教師からいろいろなボランティアを紹介したり、多くの児童を評価したりして取り組んだ。シールによる評価がなくても行動できる児童を増やしていくことが今後の課題である。	○評価の仕方を工夫する。 ○異学年での取組の紹介をし合う場を設定する。
貫 健康やかな体	○健康促進・体力の向上	○個々の体力・運動能力の向上	昨年度の新体力テストの結果を上回っている学年(男女別)の割合は40%で、目標の80%を大きく下回り、児童アンケートで1日20分以上遊んだと答えた児童の割合は77%で目標の85%を下回った。コロナ禍において、運動する機会が大きく奪われ、児童の体力は大きく低下した。体育科を中心に、くれチャレンジ・マッチ・スタジアムやサーキット、コーディネーショントレーニングに取り組み、低学年の遊ぶスペースを確保したり、コロナ禍でもできる外遊びを紹介して、少しずつ体力は回復したが、依然として運動しにくい状況にあり、特に持久力や柔軟性に課題がある。	体育科の授業を中心に楽しく運動したり、スポーツに親しめるようにする。 コロナ禍でもできる遊びや運動を紹介していく。
		○災害から自分の命を守る児童の育成(防災教育の充実)	防災教育の授業や避難訓練を実施し、「避難訓練で自分で考えて行動した。」「避難所で行われている歯磨きの仕方を身に付けた。」「授業を受けて自分の命を守るようとする意識が高まった。」と肯定的評価をした児童の割合は、平均87%で目標の80%を上回った。災害に対する正しい知識や歯磨きの仕方は身につけているが、実際に警戒レベル4の避難勧告が出ても避難できていないのが課題である。	実際に児童だけで避難するのは難しく、家庭と連携した取組を充実させていく。 防災の取組に多く取り組むのではなく、災害の種類によって「どこに」避難するのかをシンプルに考えていく。 自分で考えて動ける児童の育成を目指していく。
業 業務改善	教職員が主体的積極的に業務を行う教育環境の整備	児童と向き合う時間の確保	目標には届いていないが、中間評価に比べると、10ポイント上昇している。主体的な取組ができつつあると考えている。	提出物等の連絡を口頭だけでなく、プリントでも配布し、計画的に取り組めるようサポートするなど改善を図り始めた。児童と向き合う時間を確保できるようになった職員と意見を交流するなどして、参考にできる取組を広めていきたい。
		長時間勤務の軽減	時間外勤務が月45時間以下の教職員の割合は中間評価と同じで、96%になっており、ほぼ達成できている。特に退校時刻は水曜日が17時15分で他の曜日よりも早いときには18時のこともあり、ほとんどの教職員は時間外勤務を削減しようとして意識して業務に取り組んでいる。	持ち帰りの業務がまだあるので、さらなる業務改善を職員とともに検討したい。また新型コロナウイルス感染症予防のために、急な変更もあったが、このような状況での生活様式にも慣れてきつつあるので、見直しを持って行動していきたい。